

NPO・市民活動団体紹介のページ

函館・「下北」から核を考える会

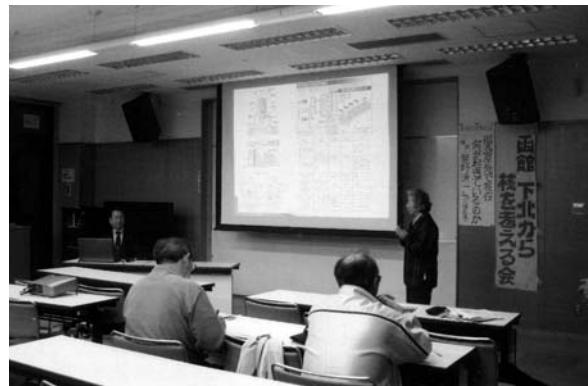
■どんな団体?

核兵器も原子力発電も必要としない社会をめざして活動しています。

函館の対岸の「大間原発」の建設に反対。また、「泊原発」や下北半島の「むつ使用済み核燃料中間貯蔵施設」、「東通原発」、「六ヶ所再処理工場」他の核燃料サイクル施設に反対し、講演会を開いたり現地行動などに参加しています。

■団体のPR

1986年4月26日の旧ソ連「チエルノブイリ原発」事故にショックを受けた函館市民を中心、同年9月に結成されました。「下北原子力半島」から原子力や核の問題を考え、原発や核兵器を必要としない安心して生活できる社会をつくりたいと活動を継続しています。



とにかく反対、まず行動!



■これから活動

4月24日から27日まで「チエルノブイリ展」を、函館市地域交流まちづくりセンターで行います。毎年行っているもので、チエルノブイリ原発事故、東電福島第一原発事故、大間原発建設などに関して会員手作りの展示やDVD上映を予定しています。入場無料、お立ち寄り下さい。

■会員募集など

年会費は3000円です。まずは「チエルノブイリ展」や『原発夜話』に参加してみて下さい。その上で連絡先へお問い合わせ下さい。

発夜話』は年一～二回開催し今年で43回を数えます。これまでの講師は多彩で、故高木仁一郎さんや広瀬隆さん、小出裕章さんなどから技術面を学び、泊、大間、六ヶ所などで反対を続けている方々から現地の状況をお聞きしてきました。

また、年に数回の現地行動参加で、自分で見聞きし判断する」との重要性を実感しています。

函館・「下北」から核を考える会

■共同代表／矢尾板和子、大場一雄
■電話／0138-51-9718

■事務局長／高橋泰助
■FAX／0138-51-9718

■会員数／37名

NPO・市民活動団体紹介のページ

ぼくたちは、おいて
行かれて道に迷つた迷
子のようなもの。道が
わからなくなつて、途
方に暮れて泣いている
だけ、帰り道さえ、進む
方向さえ見つければ、
大丈夫。

ひとりでは誰だつて淋
しいし、不安は何処までもついてくるから、仲間と、相談して、話し
合つて、みんなで帰り道を見つけに行こう。

経験や悩みを打ち明け合ひ、つかほんのより良い方法を、みんな
で探しに行こう！ それが、セルフヘルプ（自助）ということ。

ぼくたちは、当事者同士だからこそ、解り合えるし、痛みや悲し
みも共有できるはず。

だから、僕たちと一緒に、もう少し自分自身を信頼することによ
つてぼくたちはひとつまでたつて行ける。
ぼくたちの活動は自主的なもの。強制ではない。自分たちで考
え、何をやっていくかを決めていく。

当事者同士が、助け
合いながら自分達の問
題を解決していくため
のグループ。

■団体のPR



高次脳機能障害者自助グループ「トラスト」

生き難い社会ならば、その社会との関わり方を自分たちで変えて行こう、新しい関わり方をぼくたちが作って行けばいい。

■会員募集など

まだ何もしてないのですが、今できることは、それ一・次でできるひと
は次・私は君でない一だからこそ、考えて欲しいのです。一緒に進
み、不安があつたら話をしあう。会員募集中（事務局まで）

**一步踏み出せば、必ず変わる。
どこまでも行ける？どこまでも行こう。**



高次脳機能障害者自助グループ「トラスト」

■代表者／奥井直美	■事務局長／青山 剛	■会員数／7名
■電話／0138-83-8471 (小呂野ゆあさ社会福祉士事務所))		